

評価結果概要表

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	3870103854
法人名	医療法人ビハーラ藤原胃腸科
事業所名	グループホーム アショカ
所在地	松山市南吉田町964番地1
自己評価作成日	平成24年10月31日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。（↓このURLをクリック）

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	特定非営利活動法人JMACS
所在地	愛媛県松山市千舟町6丁目1番地3 チフネビル501
訪問調査日	平成25年11月15日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

<ul style="list-style-type: none"> ・本人・ご家族の希望があればターミナルケアもしており、その時まで本人らしく過ごせるように支援しています。 ・希望される方は、夜間入浴ができ、一人ひとりの生活リズムが大切にされています。 ・スタッフは私服での勤務で、自宅にいるようなリラックスできる雰囲気です。 ・回想法・タクティールケアなどにも取り組んでいます。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点（評価機関記入）】

<ul style="list-style-type: none"> ●中庭の花壇には、季節に応じて利用者がお花を摘んで生けられるように、水仙やアジサイ、パンジー、ばら等を植えておられる。 ●利用者のこれまでの入浴の習慣を踏まえて、事業所では夜間入浴を基本にして支援されている。利用者の希望や状態によっては、昼間入浴する方もいる。事業所の浴槽で温まるのが難しい状態の方には、洗い場に楕円形のビニールプールを用意して、お湯をはり温まれるように工夫されている。入居当初は、入浴を強く拒み、暴力もみられた利用者もあったが、医師と相談して、薬物療法とともに、ご家族にも入浴の様子をみてもらいながら一緒に支援に取り組まれた。まずは、利用者の気持ちにも配慮しながら、職員の声や視線を感じないようにご本人の後方から介助する等、関わり方に気を付けられ、少しずつ取り組みをすすめられた。今では、入浴後に「ありがとう」と笑顔で言われるようになったようである。

V. サービスの成果に関する項目（アウトカム項目） ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目：23, 24, 25)	○	<ol style="list-style-type: none"> 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない 	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目：9, 10, 19)	○	<ol style="list-style-type: none"> 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらい 3. 家族の1/3くらい 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目：18, 38)	○	<ol style="list-style-type: none"> 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない 	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目：2, 20)	○	<ol style="list-style-type: none"> 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目：38)	○	<ol style="list-style-type: none"> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない 	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目：4)	○	<ol style="list-style-type: none"> 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目：36, 37)	○	<ol style="list-style-type: none"> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない 	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目：11, 12)	○	<ol style="list-style-type: none"> 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらい 3. 職員の1/3くらい 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目：49)	○	<ol style="list-style-type: none"> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない 	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	<ol style="list-style-type: none"> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目：30, 31)	○	<ol style="list-style-type: none"> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない 	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	<ol style="list-style-type: none"> 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらい 3. 家族等の1/3くらい 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目：28)	○	<ol style="list-style-type: none"> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない 				

自己評価及び外部評価結果表

サービス評価自己評価項目 (評価項目の構成)

I. 理念に基づく運営

II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援

III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント

IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

【記入方法】

- 指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が介護職員と協議のうえ記入してください。
- 全ての各自己評価項目について、「実施状況」を記入してください。

(注) 自己評価について、誤字脱字等の記載誤り以外、外部評価機関が記載内容等を修正することはありません。

※用語について

- 家族等＝家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含まます。
(他に「家族」に限定する項目がある)
- 運営者＝事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。
- 職員＝「職員」には、管理者および非常勤職員を含まます。
- チーム＝一人の人の関係者が連携し、共通認識で取り組むという意味です。
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含まます。

ホップ 職員みんなで自己評価!
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!
ジャンプ 評価の公表で取組み内容をPR!!!

ーサービス向上への3ステップー

事業所名 グループホーム アショカ

(ユニット名) 月輪

記入者(管理者)
氏名 高橋 正子

評価完了日 24 年 10 月 31 日

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
I.理念に基づく運営				
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	(自己評価) 職員の思い意見を出し合っつった理念であり、実践振り返りが出来ている。	
			(外部評価) 「自分達が入居するとしたら、どんな事業所を望むか」という視点からすべての職員の意見をまとめ、「あなたの笑顔がみたいから あなたのらしさを大切に 愛ある暮らしを支援します」と事業所理念を作成されている。管理者は、「あったかいホームで、あったかい関わりを持ち、あったかい支援をしたい。」と職員に話しておられる。今後はさらに、「行動指針」についても職員で話し合いながら、理念に沿って作成したいと考えておられた。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	(自己評価) だいぶん近隣とのつきあいも出来つつある。季節の行事に参加したり、来てもらったりしている。アショカでも夏祭りとき等に近隣に声をかけているが、より地域のために何かできるとよいと思う。	
			(外部評価) 管理者は、市民大清掃等に参加する等、地域の方達と活動しながら関係作りに取り組まれている。事業所の中庭で行われた「夏祭り」時には、運営推進会議のメンバーが金魚すくいやヨーヨー釣りを担当をしてくださった。又、民生委員の方が利用者ゆかたを準備して、知り合いの方と一緒に着付けをしてくださり、利用者ご家族はたいへん喜ばれた。利用者は、地域の方や子ども達と「炭坑節」を踊る等して楽しく交流された。又、地域の盆踊り大会にも参加され、利用者は地域の方達と輪になって踊りを楽しまれた。	管理者は、「地域とのつながりが段々できてきているが、もうひとつ、地域との垣根をはずしたい」と思っておられる。今後は、「掃除が得意な利用者と市民大清掃時に参加できるように取り組みたい」と話しておられた。又、地域の文化祭等で「利用者の作品を披露できるような機会が持てればいい」とも話されていた。今後も、利用者が地域のいろいろな地域資源とかかわりを持ちながら暮らし続けられるよう、つなぎ役に努めていかれてほしい。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	(自己評価) 運営推進会議・小学生との交流などで、認知症の紙芝居をしたり、レクチャーをしたりしている。近所との避難訓練などでも、参加した近所の方は、理解をしてくれようとしている。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	(自己評価) 運営推進会議で、お便りを基に、実際に報告している。運営推進会議の内容を議事録で回覧したり、ミーティングのときに伝達し、意見をサービスに活かせるよう努力している。	会議に、利用する側である利用者やご家族の参加を増やしていかれてはどうだろうか。参加しやすい会議を工夫され、取り組みをすすめていかれてほしい。又、参加できなかったご家族等にも会議内容を知らせる等しながら、参加を働きかけたり、事業所サービスについての意見や要望をうかがうきっかけにされてはどうだろうか。
			(外部評価) 会議時には、利用者の状況や行事報告をされたり、認知症の理解が広がるように、理事長が「認知症の行動や心理状態」「ターミナルケアについて」「回想療法について」等について、法人や事業所の取り組み等も交えながら話しておられる。ご家族は「こんなにまでしているんですね」と感動されたり、ターミナルについてのお話時には「これから先どうなっていくかイメージがしやすくなった」等の感想もいただいた。以前は、利用者も会議に参加していたこともあったが、「会議に出ることで混乱する」利用者の様子がみられこともあって、現在は、利用者の会議参加は控えておられる。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者とは頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	(自己評価) 市の介護保険課や、高齢福祉課と連携をとったり、包括支援センターの方と情報交換をして、協力を頂いている。	市や地域包括支援センターの担当者の方から、他事業所の取組みや外出先等の情報をいただいている。地域包括支援センターからの依頼を受けて「認知症サポーター養成講座」を開催されたこともある。
			(外部評価) 運営推進会議時には、市や地域包括支援センターの担当者の方から、他事業所の取組みや外出先等の情報をいただいている。地域包括支援センターからの依頼を受けて「認知症サポーター養成講座」を開催されたこともある。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	(自己評価) 身体拘束はない。	玄関は、ロックされることなく自由に入出入りできるようになっていた。ユニット間も自由に行き来されており、調査訪問時には、別ユニット分のおやつを利用者が運んで行かれる様子がみられた。
			(外部評価) 玄関は、ロックされることなく自由に入出入りできるようになっていた。ユニット間も自由に行き来されており、調査訪問時には、別ユニット分のおやつを利用者が運んで行かれる様子がみられた。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	(自己評価) 研修に参加したり、スタッフ同士も話し合い注意を払っているが、稀にスピーチロックがでる時があるので、注意していく。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	(自己評価) 研修に参加したりして、学んではいるが、まだ利用者がいない。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	(自己評価)	
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) ご家族からのご意見箱を設置したり、家族会で意見を求めている。家族会でも、ご意見・要望をお尋ねしたが、「日々とてもよくケアしてもらっている。特に言う事がない。」とのことであった。何かご意見・要望があれば、早急に検討・対応に努めたい。 (外部評価) 家族会を年に2回開催して、利用者の生活や外出時の様子をスライドショーでお見せしたり、「看取りの事例」を説明されることもある。ご家族のみで話し合う時間も設けておられるが、現在、あまり意見は出ないようである。家族会で懇親会を行った際には、「職員とざっくばらんに話せてよかった」「次は妻も一緒に誘ってくる」等の声も聞かれたようだ。便りやブログを楽しみにされているご家族も多い。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	(自己評価) 運営に関しては、代表者と直接話す機会はないが、行事のことなどについては、意見を反映させ、協力もらえる。管理者とは日常的に意見を交換し、内容を検討しながら反映させている。	
			(外部評価) 職員にアンケートを取り、年間の内部研修のテーマを決めておられ、今年度は「記録の書き方」「接遇」「家族との関係作り」等をテーマにすすめておられる。今後の「家族との関係作り」の研修時には、「ロールプレイ形式」で行うことを計画されており、管理者は「利用者や家族の気持ちを体感してほしい」と話されていた。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	(自己評価) スタッフが、やりがいを持って、生き活きと働けるように、出来る限りの努力をしている。	
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	(自己評価) 研修の参加や法人の研修を設けている。管理者も随時、スタッフに勧めている。	
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	(自己評価) 2ヶ月に1回は、法人研修がある。リーダー養成研修の受け入れなどで、外部の方が来られ、情報の交換ができる機会がある。	
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	(自己評価) アセスメント表などから、情報を集めて、利用が始まってから本人の様子を見ながら、生活環境を整えていき、安心できるような関係作りをしている。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	(自己評価) 家族等の信頼関係を築いていくために、困っていること・不安なことなど、耳を傾け、関係作り・雰囲気作りに努めている。	
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	(自己評価) 必要としている支援を、ご家族や本人との話し合いから見極め、支援している。	
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	(自己評価) 介護する側・される側と分けるのではなく、家族のようにお互い支え合う関係作りに努めている。	
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	(自己評価) 行事等には、ご家族にも一緒に参加してもらったり、面会時にはケース記録を見てもらい、日々の状態の報告に努めている。	
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないう、支援に努めている	(自己評価) ご家族の了解があれば、なじみの方との外出も支援する。行きたい所があれば、一緒に行くこともある。 (外部評価) 調査訪問時には、娘さんと電話でお話している利用者がおられた。又、時には、他施設に入所しているご主人に会い、友人の方と出かける方もいる。元職場の同僚と一緒に喫茶店へ出かける方もいる。職員は「自宅が見たい」と言われる利用者と一緒にご自宅に戻り、お茶を飲みながらお庭を眺めながら過ごされることもある。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	(自己評価) 共同生活のため、トラブルもあるが、ただその方々を離すだけではなく、楽しい時間を共有し、一緒に過ごせるように支援している。	
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	(自己評価) 必要に応じて、電話をしたりしている。度々ではないが、果物を持って、立ち寄ってくれたりする。	
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	(自己評価) 意志を伝えることができる人に対しては、ケアプラン作成時など、「私の思い」として聞き、想いを伝えられない方に対しては、ご家族の想いを聞いたりカンファレンスなどで、意見を出し合い把握するよう努めている。 (外部評価) 利用者の「基本情報」を、職員が聞き取って記入されたり、ご本人やご家族に直接記入していただいている。職員は利用者とは日々過ごす中や外出時のコミュニケーションを大切に、アンテナを張って情報を集めるよう取り組まれており、会話が難しい方には、ジェスチャーやボディタッチを通じて表情をみるように努めておられる。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	(自己評価) 面会時にご家族から利用者のこれまでのことについて、情報を得られるようにしており、本人とご家族の理解に努めている。	
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	(自己評価) その人のペースに合わせながら、出来ることをしてもらって、できること・できないことの見極めをして行っている。常にアンテナをはって、気づきや発見に努めている。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
26	10	<p>○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している</p>	<p>(自己評価)</p> <p>カンファレンスで意見を出し合い、現状に合ったケアプランが出来ている。</p> <p>(外部評価)</p> <p>センター方式を採り入れ、6月から利用者一人ひとりについて「暮らしの中で課題になっていることを整理する」ための「24時間アセスメントまとめシート」を活用されている。すべての職員で話し合いながら介護計画を作成されており、日々の介護記録には、介護計画に関する記録に「#」の印を付けたり、職員に共有してほしいことや気付きには「波線」を引く等して、見直し時の「立案シート」につなげておられる。介護計画は入居時は、1～2ヶ月で見直し、その後は、3ヶ月毎に見直しされている。</p>	
27		<p>○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている</p>	<p>(自己評価)</p> <p>記録には、ケアプラン・ケアポイントを中心に書くようにし、プランの実施が分かり易くなっている。又、気付きも記録に書くようにし、赤ペンでアンダーラインを引き、分かりやすくしている。</p>	
28		<p>○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる</p>	<p>(自己評価)</p> <p>現在のところ、サービス多機能化はしていない。</p>	
29		<p>○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している</p>	<p>(自己評価)</p> <p>豊かな暮らしを楽しむことができるように近所のスーパーに買い物に行ったり、公民館で開かれるイベントに参加したり、なるべく地域社会と触れ合う機会も設けている。</p>	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
30	11	<p>○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している</p>	<p>(自己評価) 本人が希望する病院への受診対応したり、協力病院の受診対応をしている。</p> <p>(外部評価) 入居時に、かかりつけ医を母体病院に変更される方も多い。かかりつけ医である理事長の週1回の往診があり、必要時は、随時往診されている。状態によっては、定期的に血液検査する方もあり、検査結果は、事業所から用紙でご家族に報告されている。異状が確認された時には、主治医から直接ご家族に連絡されることもある。歯科や皮膚科も必要時往診を受けられる。</p>	
31		<p>○看護職との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している</p>	<p>(自己評価) 日々、看護師と情報交換を行い、看護師から指導・助言を受け、健康管理に努めている。</p>	
32		<p>○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。または、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている</p>	<p>(自己評価) 入院したときには、病状を家族や入院先の病院側から聴き、ホームで、できることを相談したり、早期に退院できるように、信頼関係作りを努めている。</p>	
33	12	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる</p>	<p>(自己評価) 状態が変わった時に、家族と面談し、家族の希望やターミナルケアの方針を取り入れつつ、支援に取り組んでいる。</p> <p>(外部評価) 利用者のご家族のほとんどの方が「最期まで事業所で」という気持ちのようだ。ご家族も、ご本人も、「苦しくないように」との思いがあり、胃ろうにせず、ご本人のペースで口から食べることを支援し、ご家族も頻繁にこられて、利用者の思い出話をしながら看取られるような事例もある。他利用者は、居室を訪ねて来られ、ご本人がお好きだった「炭坑節」を歌ってさし上げたり「がんばりなさいよ」等と声をかけてくださる様子を見て、ご家族は感激されたようだ。</p>	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	(自己評価) 定期的には行えていないため、冷静に対応できるように、定期的に学ぶ機会を増やしたい。	
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	(自己評価) 年2回防災訓練を実施して、災害時に備え身につける努力をしている。地域の方にも参加していただき、協力体制も整えている。 (外部評価) 避難訓練は、年2回実施されている。訓練には近所の方にも参加していただき、中庭に避難した利用者の見守りや誘導を手伝ってくださった。地域の自主防災士の方が運営推進会議にも出席されており、会議以外にも「地震への備え」「火災に備えて」等の資料を持って、時々立寄ってくださる。今月末には、地域の防災訓練が中学校であり、職員と利用者で参加する予定になっている。	管理者は、防災士の方のアドバイスをもとに、地震に対する対策を考えたり、訓練も行いたいと考えておられた。備蓄についても、「必要なものを順次備えていきたい」と話しておられた。さらに、いざという時慌てず対応できるよう、さまざまな災害の場面を想定して訓練を重ねられ、利用者、家族、職員が安全で安心できるような体制作りに取り組んでいかれてほしい。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
36	14	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	(自己評価) 本人がなるべく選択できるような言葉がけをするように気をつけている。 (外部評価) 利用者の個人的な内容をお話する場合は、他利用者に聞こえないように耳元で小声で話すように気を付けておられる。トイレ介助時には、利用者が便座に座った時には、前にひざ掛けを掛けて、羞恥心にも配慮されている。便りやブログに利用者の写真を載せることについては、ご家族の同意を得て行っておられる。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	(自己評価) 選択できる声かけを行っており、強制ではなく、本人の希望に添って生活できるように努めている。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	(自己評価) どうしてもスタッフ主導になってしまう場合もあるが、夜間不眠だった方は、朝ゆっくり休んでもらったりと、1人ひとりその日の状態に合わせて、生活できるように努めている。	
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	(自己評価) 出来る方は本人に任せているが、出来ない方には、洋服を選んでもらったり、本人の好みに近づけるよう支援している。	
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	(自己評価) 調理に参加できる場面を作り入居者さんに食べたいものを聞く機会を作り一緒に調理している。	
			(外部評価) 食事は、調理専属の職員と利用者もできることにかかわりながら、事業所で作っておられる。味が薄いと感られる方には、ソースや醤油、ごま塩を掛けられるよう準備されている。6月から、週1回「皆で夕食を作ろう」と決めて、その日は全利用者が食事一連に何らかの形でかかわることができるよう支援されている。ハンバーグを作った際には、「材料を切る」「こねる」「形作り」「焼く」等、分担してみなで食事を楽しめた。車いすを使用する方は、「味見役」等を担当されたようだ。調査訪問時は、利用者自ら、ご自分の食器と一緒に隣席の利用者の食器も下げてあげたり、食器を拭いたり、片付けされる様子がみられた。おやつも週に1~2回は手作りして楽しまれており、調査訪問時の3時のおやつは、利用者と職員でドーナツを手作りされていた。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	(自己評価) 食事・水分共に、1人ひとりが摂取できるよう、種類・形態を変えたり、その方に応じた支援が出来ている。	
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	(自己評価) 1人でできる方に対しては、声かけをし、介助が必要な方に対しては、スタッフが毎食後、介助している。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	<p>(自己評価)</p> <p>1人ひとりに合わせたトイレ誘導・排泄の援助をしている。</p> <p>(外部評価)</p> <p>トイレトペーパーが上手く使えない利用者には、昔ながらの「落し紙」を用意されていた。</p>	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	<p>(自己評価)</p> <p>水分や乳製品を摂ってもらい、適度な運動をして、自然排便できるように努力している。それでもでない場合は、緩下剤を使用している。</p>	
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	<p>(自己評価)</p> <p>本人の希望に添って入浴できるように、毎日入りたい方は入れるように、入浴が嫌いな方も入浴できるように工夫して入浴してもらっている。</p> <p>(外部評価)</p> <p>利用者のこれまでの入浴の習慣を踏まえて、事業所では夜間入浴を基本にして支援されている。利用者の希望や状態によっては、昼間入浴する方もいる。事業所の浴槽で温まることが難しい状態の方には、洗い場に楕円形のビニールプールを用意して、お湯をはり温まれるように工夫されている。入居当初は、入浴を強く拒み、暴力もみられた利用者もあつたが、医師と相談して、薬物療法とともに、ご家族にも入浴の様子をみてもらいながら一緒に支援に取り組まれた。まずは、利用者の気持ちにも配慮しながら、職員の声や視線を感じないようにご本人の後方から介助する等、関わり方に気を付けられ、少しずつ取り組みをすすめられた。今では、入浴後に「ありがとう」と笑顔で言われるようになったようである。</p>	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	<p>(自己評価)</p> <p>朝もゆっくり眠りたい人は、無理に起こさないよう入居者さんのペースに合わせている。</p>	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	(自己評価) 全部は把握できていない。	
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	(自己評価) 日々の生活の中で楽しみが持てるように外出などを多く取り入れるようになった。入居者さんのできること(裁縫・掃除など)取り入れて支援している。	
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	(自己評価) 出来る限り、その日の本人の希望にそって、戸外に出かけられるように支援している。	
			(外部評価) 事業所では、車を1台新しく購入されたことで、最近では外出が増えたようだ。利用者は「景色の良いところへ行きたい」と希望されたり、「美味しいものを食べに行きたい」と言われ、海や公園に出かけたり、外食に出かけたりされている。お花見や菊花展に出かける際には、ご家族にも声をかけて、一緒に楽しめるような機会を作っておられる。今月末には、系列事業所で、神戸旅行の計画があり、利用者2名と管理者も便乗して出かける予定となっており、利用者はたいへん楽しみにされていた。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	(自己評価) 現在は、お金を所持している方は少ないが、外出時などに本人に渡し、使えるように支援していきたい。	
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	(自己評価) 自分から電話することはほとんどないが、手紙を書いたり、電話がかかってきた時は、本人にかわるようにしている。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
52	19	<p>○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>(自己評価) 音や光の環境を整え、フロアには季節の花を飾り、窓から見える中庭が一望でき、季節感を味わうことができる。廊下には馴染みの写真を貼ったりして、居心地のよい環境を作っている。</p> <p>(外部評価) ユニットの玄関はそれぞれ別々にあるが、中に入ると廊下でつながっており、ユニット間で行き来できるようになっている。居間のテーブルや棚の上には、椿の花を生けておられた。居間や廊下の壁には、外出時の写真や利用者が描いた「かまぼこ板の絵」が飾られてあった。中庭は、両ユニットから出られるようになっており、利用者によっては、毎朝の歩行訓練のコースになっている。中庭の花壇には、季節に応じて利用者がお花を摘んで生けられるように、水仙やアジサイ、パンジー、ばら等を植えておられる。調査訪問時、利用者は、居間で牛乳パックを切り開いたり、タオルを干したりされていた。</p>	
53		<p>○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている</p>	<p>(自己評価) フロアが広いので、一人で過ごせる場所もあり、皆と一緒に過ごすことも出来たりと、本人の気分によって、過ごせる場所を選べるようにしている。</p>	
54	20	<p>○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>(自己評価) 居室には使っていた物や、仏壇を持ち込んだり、写真を飾ったりして、個性を出している。</p> <p>(外部評価) 居室にテレビを置いている方、仏壇を持ち込んでいる方もいる。元職人だった方はベッドの周りにダンボールやドライバー・ボンド等をたくさん準備されている。人形をケースに入れ飾っている方、壁にご家族の描いた油絵を掛けている方もある。猫の縫いぐるみを「みーちゃん」と名付け、以前、自宅で飼っていた猫と思って可愛がっておられる方もいる。調査訪問時には「みーちゃん」をタオルに包んであげて、抱っこしてテレビをみておられた。</p>	
55		<p>○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している</p>	<p>(自己評価) 居室など、文字だけでなく、写真を貼ったり絵で表示したり工夫している。</p>	